

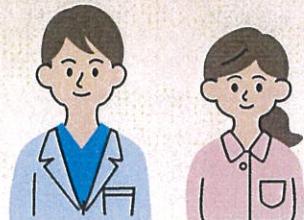
新型コロナワクチン接種のお知らせ

接種費用
無料
(全額公費)

医療従事者等※の方から 新型コロナワクチンの接種が始まります。

※新型コロナウイルス感染症患者(新型コロナウイルス感染症疑い患者を含む)に直接医療を提供する施設の医療従事者等。
新型コロナウイルス感染症患者の搬送に携わる救急隊員等及び患者と接する業務を行う保健所職員等を含む。

- ◎ご自身が該当するかどうかや、接種方法・接種場所等については、
ご自身の所属機関にてご確認ください。
- ◎ワクチンを受けるにはご本人の同意が必要であり、強制される
ものではありません。職場や周囲の方などに接種を強制したり、
強引に勧めたりすることがないようにしてください。



接種にあたっての注意事項

- 以下にあてはまる方も基本的には接種は可能ですが、かかりつけ医等とご相談の上、ワクチンを受けるかどうかお考えください。
 - ・現在、何かの病気で治療中の方
 - ・授乳中の方
 - ・新型コロナウイルスに感染したことがある方
- 妊娠中の方につきましては、現時点では十分な臨床試験データがありませんので、接種については主治医等とご相談ください。

接種当日の注意事項

- 接種前にご自宅で体温を測定し、明らかな発熱がある場合や体調が悪い場合は、接種を控え、接種を受ける予定の施設にご連絡ください。
- 肩を出しやすい服装でお越しください。

接種の際に 必要なもの	初回	・接種券付き予診票(職場にて配付されます) ・本人確認書類(運転免許証、健康保険証等)
	2回目	・接種記録書※と上記2点 ※接種記録書は1回目の接種時に配付されます。

ワクチンは2回接種します

- ・ワクチンの効果を十分得るために、同じワクチンを通常3週間空けて2回受ける必要があります。
- ・接種後に現れた症状の種類によっては、2回目の接種を受けない方がよいこともあります。
接種後に気になる症状が現れた方は、2回目を受けるかどうかも含めて、ワクチンを受けた医療機関やかかりつけ医にご相談ください。
- ・有効性、安全性についての情報は裏面をご覧ください。



すでにワクチンを受けた医療従事者等の方にも、市町村からクーポン券が
送付されますが、そちらは使用しないでください。なお、一般の方は、クーポン券を使います。

コミナティ®(ファイザー社)について



特徴

- メッセンジャーRNAワクチンという種類のワクチンです。
- 通常、三角筋(上腕の筋肉)に、筋肉内注射という方法で接種します。

有効性

- 新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)による感染症の予防

※ワクチンを受けた人の方が受けていない人よりも、新型コロナウイルス感染症を発症した人が少ないとうことがわかっています(発症予防効果は約95%と報告されています。)。

安全性

- 次のような症状が現れることがあります。

発現割合	症状
50%以上	接種部位の痛み、疲労、頭痛
10-50%	筋肉痛、悪寒、関節痛、下痢、発熱、接種部位の腫れ
1-10%	吐き気、嘔吐

・インフルエンザの予防接種等と比べて、痛みが強いと感じる方もいます。

コミナティ®添付文書より改編

・これらの症状の大部分は、接種後数日以内に回復しています。

・疲労や関節痛、発熱など、1回目より2回目の方が、頻度が高くなる症状もあります。

- 接種後すぐに現れる可能性がある症状について

※アナフィラキシー

- ・薬や食物が体に入ってから、短時間で起こることのあるアレルギー反応です。
- ・じんま疹などの皮膚症状、腹痛や嘔吐などの消化器症状、息苦しさなどの呼吸器症状が、急に起ります。血圧低下や意識レベルの低下(呼びかけに反応しない)を伴う場合をアナフィラキシーショックと呼びます。
- ・起こることは極めてまれですが、接種後にもしアナフィラキシーが起っても、すぐに対応が可能なよう、ワクチンの接種会場や医療機関では、医薬品などの準備をしています。

※血管迷走神経反射

- ・ワクチン接種に対する緊張や、強い痛みをきっかけに、立ちくらみがしたり、血の気が引いて時に気を失うことがあります。
- ・誰にでも起こる可能性がある体の反応で、通常、横になって休めば自然に回復します。
- ・倒れてケガをしないように、背もたれのある椅子に座って様子をみてください。

予防接種では、健康被害(病気になつたり障害が残つたりすること)が起こることがあります。極めてまれではあるものの、なくすことはできないことから、救済制度が設けられています。申請に必要な手続きなどについては、住民票のある市町村の予防接種担当部門にお問い合わせください。

ワクチンを受けた後も、マスクの着用など、感染予防対策の継続をお願いします。

ワクチンを受けた方は、新型コロナウイルス感染症の発症を予防できると期待されていますが、他の方への感染をどの程度予防できるかはまだ分かっていません。また、ワクチン接種が徐々に進んでいく段階では、すぐに多くの方が予防接種を受けられるわけではなく、ワクチンを受けた方も受けていない方も、共に社会生活を営んでいくことになります。

このため、皆さんに感染予防対策を継続していただくようお願いします。

具体的には、「3つの密(密集・密接・密閉)」の回避、マスクの着用、石けんによる手洗いや手指消毒用アルコールによる消毒の励行などをお願いします。

新型コロナワクチンの詳しい情報については、
厚生労働省のホームページをご覧ください。

厚労 コロナ ワクチン

検索



新型コロナウイルスワクチンを 安全に接種するための注意とポイント

新型コロナウイルスワクチンを短期間で多くの人に安全に行うための注意とポイントを解説します。このワクチンはこれまで国内であまり行われていなかった筋肉注射です。筋肉注射の手技についてもわかりやすく紹介します。

監修

厚生労働行政推進調査事業費補助金
「新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業」
「ワクチンの有効性・安全性と効果的適用に関する疫学研究」

研究代表者：廣田良夫
分担研究者：岩田 敏／岡田賢司／中野貴司

研究協力者：多屋馨子
監修協力者：峯 真人／中山久仁子

接種会場の環境

プライバシーが保護され、密を避けた環境を用意してください。
被接種者ごとに手指衛生を徹底してください。
救急対応の手順や物品を確認してください。

予診

集団接種の場合、予診は、問診と視診を基本とします。
接種要注意者・基礎疾患有する人など、予診医が必要と認めた人には
聴診・触診を行います。



予診時に確認すること【リスクコミュニケーション】

以下については、必ず問診で確認してください。

ワクチンの効果と
副反応についての理解

予防接種健康被害
救済制度の認知

重いアレルギー反応
の既往

接種不適当者に該当する症状が悪化している場合や全身状態が悪い場合には、接種を延期して、体調が良くなつてから接種を行うことを検討します。

集団接種で問診医が接種に迷う場合は、かかりつけ医などの個別接種を検討していただくのもよいでしょう。

接種不適当者（接種を行いません）

- ①明らかな発熱を呈している。
- ②重篤な急性疾患有かかっていることが明らかである。
- ③接種しようとする接種液の成分に対してアナフィラキシーを呈したことが明らかである。
- ④その他の理由により予防接種を行うことが不適当な状態である。

接種要注意者（接種の適否を慎重に判断してください）

- i 抗凝固療法を受けている人、血小板減少症又は凝固障害を有する人
- ii 過去に免疫不全の診断がなされている人及び近親者に先天性免疫不全症の人
- iii 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害等の基礎疾患有する人
- iv 予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた人及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある人
- v 過去にけいれんの既往のある人
- vi 接種しようとする接種液の成分に対してアレルギーを呈するおそれのある人

接種前のチェック

まず、お名前、そしてアルコール過敏症かを確認してください。
アルコール過敏症の場合、アルコールフリー(クロルヘキシジングルコン酸
塩化浸など)の消毒綿を使います。

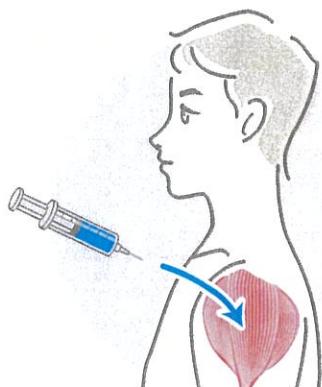


過緊張、採血等で気分がわるくなったことがある人は、ベッドに横になっての接種も考慮します。

筋肉注射のポイント

新型コロナワクチンは筋肉注射です。

通常、三角筋の中央部に注射します。



被接種者ごとに、必ず手指消毒をしてください。
手袋をしている場合は、手袋をはずして手指消毒をしてから、新しい手袋を着用してください。

被接種者には腕を下におろし、リラックスした姿勢をとっても
らいます。

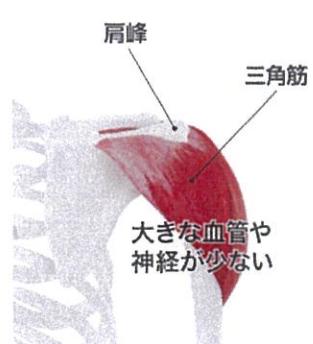


1 穿刺部位の確認

注射部位は三角筋中央部です。肩峰から真下に3横指程度下の位置が目安になります。

接種部位が上方すぎるとワクチン関連肩関節障害を、下方すぎると橈骨神経障害を起こすリスクがあるので、注意が必要です。

*接種部位の目安として肩峰下の前後腋窩線を結ぶ線の高さを推奨する報告もあります。

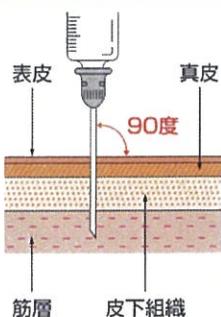


2 穿刺部位の消毒



穿刺部位を中心から外側に向けて円を描くように、直径5cm以上の範囲を消毒綿で拭いてください。
アルコールが乾燥するまで待ちます。

3 穿刺



大事なことは
筋肉内に針を刺し、
薬液を注入
することです。

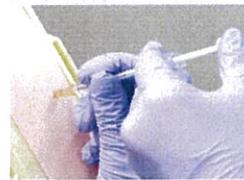
利き手でシリンジを持ちます。

注射部位周辺の皮膚を軽く広げるように伸展させてから三角筋の外縁に手を添えます。
注射針を皮膚に約90°の角度で素早く刺してください。

短いシリンジの場合



長いシリンジの場合



シリンジの持ち方に、決まりはありません。支持しやすい持ち方で接種してください。

注射針について

通常、太さ25G、長さ25mmのものを使いますが、年齢・体格に応じて、適切に筋肉内に接種できるものを選んでください。



高齢者など筋肉量の少ない人の場合は長さ16mmの針を。ただし、付け替える際に薬液が漏れたり汚染されないように十分な注意が必要です。

1 薬液を注入



三角筋には大きな血管がないので、陰圧をかけて血液の逆流を確認する必要はありません。

シリンジと注射針が安定するように工夫して持ち、適度な速度で注入してください。

2 抜針



穿刺部位に消毒綿をあて、素早く針を抜いてください。

3 消毒綿で注射部位を押さえる



接種後は揉まないで、軽く押さえます。抗凝固療法や抗血栓療法を受けている人には、最低2分間強めに押さえてもらいます。

4 使用済の針の処理



針刺し事故防止、および感染の危険があるため、針はリキヤップせずに注射器ごとただちに専用廃棄容器に捨ててください。

5 接種直後に声かけをする



被接種者に終了したことを伝え、異常がないか声をかけてください。



接種後は、必ず手指消毒をしてください。
手袋をしている場合は、手袋をはずして手指消毒をしてから、新しい手袋を着用してください。

接種後の注意

血管迷走神経反射

接種後は、血管迷走神経反射による失神や気分不良が起こる場合があります。観察室などへの移動にも注意してください。

アナフィラキシー

アナフィラキシーが疑われる場合は、アドレナリン製剤が第一選択になります。事前に、用意しておく必要があります。

血管迷走神経反射とアナフィラキシーの特徴

	発症時期	症状
血管迷走神経反射	接種直後から	徐脈、血压低下
アナフィラキシー	接種数分後から	頻脈、皮膚症状(膨疹、丘疹)、血压低下

◆接種後の観察

観察室では、背もたれのある椅子で15分ほど休んでもらいます。即時型アレルギー反応やアナフィラキシーの既往のある接種者は、特に注意するために30分の経過観察が必要です。

◆接種後の注意を伝えてください

伝えること

- 接種日は激しい運動は控えてもらうこと。
- 入浴はかまわないこと。
- いつもと違う感じがしたら、接種担当医やかかりつけ医、相談センターに連絡し、予防接種をしたことを伝えて相談すること。



新型コロナワクチン

予診票の確認のポイント

Ver 1.0

(令和3年3月26日版)

**厚生労働省
健康局健康課予防接種室**

目次

1 新型コロナワクチンの接種を初めて受けますか。	2
2 現時点での住民票のある市町村と、クーポン券に記載されている市町村は同じですか。	2
3 「新型コロナワクチンの説明書」を読んで、効果や副反応などについて理解しましたか。	2
4 接種順位の上位となる対象グループに該当しますか。	3
5 現在何らかの病気にかかって治療（投薬など）を受けていますか。	3
6 その病気を診てもらっている医師に今日の予防接種を受けてよいと言われましたか。	3
7 最近1か月以内に熱が出たり、病気にかかったりしましたか。	4
8 今日、体に具合が悪いところがありますか。	4
9 けいれん（ひきつけ）を起こしたことがありますか。	4
10 薬や食品などで、重いアレルギー症状（アナフィラキシーなど）を起こしたことがありますか。	5
11 これまでに予防接種を受けて具合が悪くなったことはありますか。	6
12 現在妊娠している可能性（生理が予定より遅れているなど）はありますか。または、授乳中ですか。	6
13 2週間以内に予防接種を受けましたか。	6
14 今日の予防接種について質問がありますか。	7
・ 予診票の取り扱いに関するその他の事項	7

※1～4、13は事務職員等が確認可能です。その他の項目も、記入の有無などの確認を事務職員等が行うことができます。

5～12、14は、最終的に医師が確認した上で接種を判断する必要があります。こうした項目の記載内容を、医師以外の医療従事者が予め確認することで、医師の予診の時間が短縮されると考えられます。

1 新型コロナワクチンの接種を初めて受けますか。

確認のポイント

接種間隔の確認を行います。また、2回目の接種の記載がある方は、接種はできません。

(解説) ファイザー社のワクチンの接種間隔：

標準的には20日の間隔をおいて2回接種します。(1回目から3週間後の同じ曜日に2回目を接種。)

最短では、18日以上の間隔をおいて接種が可能です。(1回目から3週間後の同じ曜日の2日前に2回目を接種)

1回目接種からの間隔が20日を超えた場合、できる限り速やかに2回目を接種します。

2 現時点での住民票のある市町村とクーポン券に記載されている市町村は同じですか。

確認のポイント

現時点での住民票のある市町村が、クーポン券に記載のある市町村(クーポン券の発行時点で住民票のあった市町村)と異なる方は、現時点での住民票のある市町村からクーポン券の発行を受けた上で接種する必要があります。

(解説)

よく確認していただいたうえで、異なっている場合は、接種を受けることができないので、住民票のある市町村からクーポン券の発行を受けた上で接種するよう案内してください。

住民票のある市町村とクーポン券に記載のある市町村が異なる場合は、費用請求や被害救済に支障が生じる可能性があります。

クーポン券に記載の市町村 ←→ 住民票のある市町村 ←→ 接種場所の所在する市町村

同じである必要があります

異なっていても接種できる場合があります(※)

(※)

住民票のある市町村と、接種場所の所在市町村は、異なっていても接種できる場合があります。

○「住所地外接種届出済証」の提示の必要がある場合

・住民票のある市町村と実際に居住している市町村が異なる方

(単身赴任者、遠隔地へ下宿している学生、その他やむを得ない事情のある方)

・出産のために里帰りしている妊産婦

○「住所地外接種届出済証」の提示の必要がない場合

・入院・入所者 ・基礎疾患を持つ者が主治医の下で接種する場合 ・災害による被害にあった者

3 「新型コロナワクチンの説明書」を読んで効果や副反応などについて理解しましたか。

確認のポイント

予防接種の効果や副反応などを理解しているかを確認するための項目です。

「いいえ」の場合には、医療機関(施設)で、予診前に被接種者に説明書を読んでいただく、または予診医や接種会場のスタッフから説明してください。

(解説)

いったん「いいえ」にチェックがなされた場合でも、被接種者が説明を受け理解した場合には、被接種者が「はい」にチェックすることで、接種を受けることができます。こうした経緯が明らかになるよう、医師記入欄に、被接種者本人のサイン、又は被接種者に了解を得た旨の記載をすることが望ましいと考えられます。

4 接種順位の上位となる対象グループに該当しますか。

確認のポイント

一般の方への接種が始まる前の段階では、優先接種対象者に該当しているかを確認してください。

(解説)

その時点での優先接種対象者に該当しているかを確認する項目ですので、複数の項目に該当する場合でも、全ての該当項目にチェックを求める必要はありません。

5 現在何らかの病気にかかって治療(投薬など)を受けていますか。

確認のポイント

特に以下に該当するかに注意して接種の判断をお願いします。

○基礎疾患の状態が悪化している場合や全身状態が悪い者等

体調が回復してから接種することが大切です。体調が悪いときの接種は控えます。体調がよくなった頃に、改めて次の接種を相談してください。接種後の軽度の副反応が重篤な転帰に繋がることのないよう、特に慎重に予防接種の適否を判断する必要があります。

○免疫不全のある方、○血が止まりにくい病気のある方や、抗凝固剤を服用されている方

下記に注意すれば接種可能です。(解説参照)

○アレルギー疾患のある方

10を参照ください。

(解説)

・免疫不全のある方については、新型コロナウイルス感染症の重症化のリスクが高いとされています。米国CDCの見解では、現時点で、有効性と安全性に関する確立されたデータはありませんが、他の接種不適当者の条件に該当しなければ、接種は可能とされています。

・血が止まりにくい病気のある方や、抗凝固剤を服用している方は、筋肉内出血のリスクがあるため、接種後2分以上、強めに接種部位を圧迫してもらう必要がありますが、接種は可能です。(なお、抗血小板薬を服用している方は、筋肉内出血のリスクではないとされていますので、接種可能です。ただし、止血に時間がかかる可能性があることにご留意ください。)

6 その病気を診てもらっている医師に今日の予防接種を受けでよいと言われましたか。

確認のポイント

かかりつけの医師の意見がある場合に、その意見を確認した上で接種の判断を行うための質問です。

なお、かかりつけの医師に確認せずに接種を受けに来た方については、予診医が、5の内容などに注意して問診を行い、接種が可能と判断した場合は、接種可能です。

(解説)

「いいえ」のチェックがある場合、予診医が確認の上で判断したことが明確になるよう、「医師記入欄」へ接種が可能であるか否かの記載を予診医が行うようお願いします。

7 最近何か月以内に熱が出たり、病気にかかったりしましたか。

確認のポイント

罹患した疾病的種類によっては、免疫機能の低下や続発疾患の可能性も考えられますので、治癒後2週間を目安として間隔をおきます。

最近の新型コロナウイルス感染症の罹患歴がある場合は、臨床的に回復していれば、接種は可能ですが、詳しくは解説を参照してください。

(解説)

2週間を目安としていますが、麻疹など特に免疫抑制を認める疾患の場合は、十分な免疫を付けるためには4週間程度間隔をおくことが望ましいと考えられます。

最近のコロナウイルス感染症の罹患について、米国CDCでは、隔離を中止するための基準が満たされるまでワクチン接種を延期する必要があるとしています。また、新型コロナウイルス再感染のリスクは感染後の最初数か月では低く、免疫力の低下により時間とともに増加する可能性があることが示唆されていることから、最近新型コロナウイルス感染症に罹患した人は、必要に応じてワクチン接種を一時的に遅らせることを選択できます。治療内容によっては更に期間をあけることが必要な場合があるため、確認を行います。

8 今日、体に異常が悪いところがありますか。

確認のポイント

予防接種は体調の良い時に接種していただくことが基本です。

被接種者が何らかの軽い不調を訴えている場合も、予診医が接種可能と判断する場合は、接種が可能です。

(解説)

「はい」の場合は、どのように異常が悪いかにより、予診担当医が接種の可否を判断してください。

その場合、予診医が確認の上で判断したことが明確になるよう、「医師記入欄」へ接種が可能であるか否かの記載を行うことが望ましいと考えられます。

9 けいれん(ひきつけ)を起こしたことありますか。

確認のポイント

小児期の熱性けいれん等の既往のみでは、接種不適当者にはなりません。

現在において、けいれん発作が起こる方も、けいれん発作状況がよく確認されており、病状と体調が安定していれば、主治医（予診医）が適切と判断した場合には接種しても差し支えありません。

(解説)

けいれんの原因診断がついている場合には、その疾患の主治医と相談の上、予防接種の実施について検討します。接種後に発熱を認めることがあるため、発熱によってけいれん発作が生じやすいとされているてんかん患者については、発熱が生じた場合の発作予防策と発作時の対策を設定・指導してください。

10 医薬や食品などで、重いアレルギー症状（アナフィラキシーなど）を起きたことがありますか。

確認のポイント

接種するワクチンの成分に対し重度の過敏症の既往のある人は、接種不適当者に該当します。

1回目の接種でアナフィラキシーを起こした人は、2回目の接種はできません。

食物アレルギー、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎（花粉症含む）、蕁麻疹、アレルギー体質等だけでは、接種不適当者にはならず、接種するワクチンの成分に関係のないものに対するアレルギーを持つ方も接種は可能です。

ただし、即時型のアレルギー反応の既往歴がある人は、接種要注意者として、接種後30分間の経過観察をします。

(解説)

ファイザー社のワクチンに含まれるポリエチレングリコールや、交差反応性が懸念されているポリソルベートを含む医薬品については、[医薬品医療機器総合機構（PMDA）のホームページ](#)で検索することができます。また、ポリエチレングリコールは、大腸の検査をする時に用いる腸管洗浄剤、医薬品・医薬品添加物、ヘアケア製品、スキンケア製品、洗剤など、さまざまな用途に使用されています。

ポリエチレングリコールに対して重度の過敏症の既往が明らかな方は、接種不適当者に該当します。

ポリソルベートに対して重いアレルギー反応を起こしたことがある方への接種は、専門医による適切な評価とアナフィラキシーなどの重度の過敏症発症時の十分な対応ができる体制のもとで行うことが望ましいとされています。ポリソルベートは既存のワクチン（11参照）等の医薬品の他、乳化剤として様々な食品に用いられています。

なお、ポリエチレングリコールやポリソルベートを含む医薬品・製品は非常に多数存在するとともに、こうした医薬品・製品には他の成分も含まれていることから、実際には原因の特定に繋がらないことが多いと考えられます。そのため、様々なアレルギー歴について丁寧に聴取し、原因の特定に至っていない場合も含め、過去に何らかの医薬品や食品などで重いアレルギー症状を起こしたことがある方に対しては、十分注意をして接種の判断を行うとともに、接種後は30分間の経過観察を行います。

ファイザー社のワクチンのバイアルストッパーは天然ゴムラテックスで作られていないため、ラテックスアレルギーのある人にもワクチン接種は可能です。また、卵やゼラチンも含まれていないため、これらの物質にアレルギーのある人もワクチン接種は可能です。

これまでの予防接種で具合が悪くなった方については、11もご参考ください。

11. これまでに予防接種を受けて具合が悪くなつたことはありますか。

確認のポイント

以前に予防接種による副反応の既往があれば、その使用ワクチンの成分（添加物を含む。）と実施しようとするワクチンの成分について共通性の確認も必要です。

1回目の接種でアナフィラキシーを起こした方は、2回目の接種はできません。アナフィラキシー以外の即時型のアレルギー反応がみられた方についても、接種の是非を慎重に判断します。また、過去に迷走神経反射を起こしたことがある方は、接種後30分間の経過観察を行います。ベッドに臥床して接種することも迷走神経反射の予防法の1つです。

(解説)

ポリエチレングリコールを含むワクチンは、ファイザー社のワクチンが初めてです。

ポリエチレングリコールと交差反応性をもつと言われているポリソルベートを含むワクチンは、沈降13価肺炎球菌結合型ワクチン（プレベナー13）、インフルエンザHAワクチン「第一三共」、組換え沈降4価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン（ガーダシル）、乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン（エンセバック）、5価経口弱毒生口タウイルスワクチン（ロタテック）、不活化ポリオワクチン（イモバックス）等です。即時型のアレルギー反応の既往歴が判明した場合は、接種要注意者に該当する可能性があります。

新型コロナワクチンの1回目接種後に遅発性の局所反応（例えば、紅斑、硬結、そう痒症）があつただけであれば、2回目接種は可能です。1回目接種後に遅発性の局所反応を経験した人が、2回目の接種後に同様の反応を起こすかどうかは不明です。新型コロナワクチンの1回目接種で、アナフィラキシー以外の即時型のアレルギー反応を起こした方については、10を参照し、接種を見合わせるか、重度の過敏症発症時の十分な対応ができる体制のもとで接種を行うかを、慎重に判断する必要があります。

12. 現在妊娠している可能性（生理が予定より遅れているなど）はありますか。または、授乳中ですか。

確認のポイント

妊娠中、授乳中の方も接種は可能ですが、接種のメリットとデメリットをよく検討して接種を判断していただくこととしています。

(解説)

海外の使用経験などから現時点では特段の懸念が認められているわけではありませんが、安全性に関するデータが限られていることから、主治医に相談いただくなどして、接種のメリットとデメリットをよく検討して接種を判断していただくこととしています。なお、日本産婦人科感染症学会・産科婦人科学会の提言については、下記をご参照ください。

http://www.jsog.or.jp/news/pdf/20210127_COVID19.pdf

13. 2週間以内に予防接種を受けましたか。

確認のポイント

新型コロナワクチンと、他のワクチンとの接種は、13日以上の間隔をおくこととしています。

「はい」の場合には、緊急の事情がある場合を除き、接種日を改めてもらいます。また、接種後は2週間、他のワクチンの接種はできませんので、説明が必要です。

14 今日の予防接種について質問がありますか？

確認のポイント

「はい」の場合は、質問を確認して回答するなど、丁寧に被接種者の理解をいただくようお願いします。

(解説)

医師の予診に至る前に予診票を確認した担当者が対応できる内容であれば、当該担当者等が対応できます。医師が対応する必要がある内容であれば、医師が回答します。

～予診票の取り扱いに関するその他の事項～

●接種不適当者の「明らかな発熱を呈している者」について

明らかな発熱とは通常 37.5°C以上を指します。ただし、37.5°Cを下回る場合も平時の体温を鑑みて発熱と判断される場合はこの限りではありません。

●「医師署名又は記名押印」欄について

署名は接種を判断した医師の直筆で行いますが、ゴム印等で記名した場合は医師の押印を行います。

●最下部の医師記入欄（ワクチン名、ロット番号、接種量、実施場所、医師名、接種年月日）

医師の指示のもと、医師以外の人が記入することができます。

実施場所は、医療機関が行う場合は医療機関名を記載し、集団接種会場で実施する場合は、できるだけ実施の主体や場所が特定できるよう記載します。（例：〇〇市保健センター、〇〇公民館）

厚生労働行政推進調査事業費補助金 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業
「ワクチンの有効性・安全性と効果的適用に関する疫学研究」（研究代表者 廣田良夫）の
研究分担者・研究協力者の方々（岡田賢司、中野貴司、岩田敏、多屋馨子）に
ご協力をいただいています。（敬称略）

新型コロナワクチン接種を 予約された方へ

ワクチン接種を受ける前に～ワクチンと副反応～

安全に、そして安心してワクチンを接種できるよう、この説明書を用意しました。ぜひ接種を受ける前にお読みください。

ひとは、体調や体质により、外部から体内に入るものの（例えば食物、お薬など）によって、“アレルギー反応”を起こすことがあります。

ワクチンも同様に、頻度は多くありませんが、アレルギー反応などの副反応を起こすことがあります。しかし、接種前の正確な問診と、万が一副反応が起こっても正しく対処することで、重篤な症状になることは極めてまれです。

ワクチン接種の前には、『問診票』で発熱の有無、心臓病や腎臓病等の持病の有無、予防接種によるアレルギー歴の有無などの確認を行います。当てはまるものがあれば、必ず医師にお伝えください。

ワクチン接種後（直後から数日間）は、ご自分の体調に注意しましょう。体調の変化、異常があれば、接種を受けた医療機関や、予め伝えられた連絡先に相談し、指示を仰ぎましょう。



日本医師会

<https://www.med.or.jp/>

起こるかもしれない症状

- **注射した部位の腫れや痛み**  当日に現れ2日ぐらい続く
- **筋肉痛、関節痛**  多くは接種翌日に現れ、1日程度で治まる
- **頭痛**  多くは接種翌日に現れ、1日程度で治まる
- **倦怠感、寒気、発熱**  多くは接種翌日に現れ、1日程度で治まる



上記のような症状が出て数日してもよくならない場合は、医師の診察を受けてください。

アナフィラキシー

発生頻度は低いが以下のようない状態

- **皮膚のかゆみ、じんま疹、皮膚が赤くなる**
- **くしゃみ、のどのかゆみ、声のかすれ、息苦しさ**
- **腹痛、吐き気**
- **物が見えにくい**
- **気分の不良 など**



接種直後から30分以内にこのような症状が現れた場合は、直ちに接種した医師や看護師に伝えてください。

ワクチン接種後15~30分は、接種医療機関（接種会場）にお残りください。

お帰りの際には、医師や看護師等に許可をもらってください。その際には、体調に変化があったときの連絡先を必ずご確認ください。

日本医師会
公式キャラクター
「日医君」

